

大島紬ストール

〈今昔・物語り〉
2007かごしまの新特産品「コンクール」
鹿児島市長賞



伝統ある大島紬、そのすばらしい技術とデザインを、今に活かすため、日々創作に取り組んでいる藤かをりさん。鹿児島市の住宅街にある藤かさんの工房「風吹布」を訪ね、大島紬にかけると熱い想いを伺いました。

このストールは、ふわふわと軽くて肌触りがとてもいいですね。

タテ糸に泥染めの大島紬、ヨコ糸にカシミヤを使って織っています。大島紬のしなやかさとカシミヤの柔らかさがあいまって、やわらかく軽やかな仕上がりになっています。このやわらかさ、軽さを出すために、タテ糸に工夫を施したり、起毛させたりしています。ここまでくるのに10数年かかりました。暖かいだけでなく、丈夫で不思議としわにならず、自分でも洗濯できます。

大島紬の柄が効いていますね。

大島紬の柄は、ソテツの葉や亀の甲羅、貝殻など奄美の自然を十分取り入れ



38cm巾 24,150円 50cm巾 48,300円

図案化したものです。このストールは、大島紬の模様のあるカスリ糸で柄を織り込んでいます。

作品づくりで大切にされていることは？

「奄美の風のようなやさしい布を作りたい」というのが私の想いです。私の父母は大島紬創作に生涯をかけ、私はそれを育て育ちました。奄美の海・山・風、糸練りの唄、機（た）の音。ふるさとへの想いは日に日に強くなります。その想いを表現するため、私は、タテ糸を奄美の泥染め糸で、ヨコ糸をいろいろな素材や色の糸で織っています。泥染めの糸は主張せず、控えめでありながら、洗いや魅力で作品をひきたててくれる名脇役です。

これからどんな作品を作っていきたいのでしょうか。

大島紬の技術やデザインを、今に活かしたものをつくっていきたくと思っています。そういう想いを込めて、ストールにも「今昔・物語り」という名前をつけています。

今や、大島紬は存亡の危機にあると思います。私は、先人たちが延々と守ってきた技術、機（た）の音を絶やしたくありません。それは切なる願いです。呼吸が一度止まったら、また動かすのは無理ですから、ささやかにでも鳴らし続けることがとても大切だと思います。

大島紬の着物はとても貴重なものです。だから私はもっと気軽に着れるもの、使えるものをひとつひとつ想いを込めて作り、みなさんに大島紬に親しんでいただきたいと思っています。

藤さんのストールはセーターやスワーツ、コートなど普段の洋服にコーディネートできるのが魅力です。今年はストールが流行しています。冬のおしゃれにいかがでしょうか。

藤さんの作品は、藤かをり工房「風吹布」と県特産品協会で販売しています。

〈藤かをり工房「風吹布」染織展を開催しています。〉

日時／11月5日～11日

※最終日4時終了

場所／山形屋画廊（3号館3階）

PRESENTS プレゼントコーナー

大島紬の巾着型小物入れ
「おごじょ小袋」を3名様にプレゼント。

締め切り
平成21年1月30日（金）



○応募方法 ハガキ、FAXまたは電子メールに

①「グラフかごしま」に関するご意見・ご感想、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤年齢、⑥職業、⑦電話番号を記入の上、下記までお送りください。

●はがき宛先 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県広報課「グラフかごしまプレゼント係」

●F A X 099 (286) 2119 (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

●メールアドレス h-kikaku@pref.kagoshima.lg.jp (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

※いただいた個人情報は、プレゼント送付以外の目的には利用しません。

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



「鹿児島ブランドショップ」(県産業会館1階)

お歳暮に県産品をどうぞ!

かごしま冬のギフトフェア

平成20年12月下旬まで

県内の特産品の問い合わせ、ご用命は

鹿児島ブランドショップへ

鹿児島県特産品協会

〒892-0821 鹿児島市山町9-1 鹿児島県産業会館内

☎099-225-6120 FAX099-223-0755

店休日 年末・年始 ●営業時間 午前9時～午後6時

東京店 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-6-4 千代田ビル3階

☎03-3506-9171 FAX03-3506-9172

ホームページURL <http://www.k-p-a.jp>

